

『キリスト者の祝福と戦い』 ペテロ書 1:1 ~ 2

著者は、使徒ペテロ

聖書中の人物で好きな人は誰か、というアンケートをしたら、おそらくトップ・ファイブに入るのが「ペテロ」であると思います。大胆に発言・行動し、間違いも犯し、イエス様にたしなめられもするが、それで後ろ向きにならずにイエス様に従い続け、やがて主の復活を目撃し、ペンテコステを通して教会の柱となったペテロ、何か親近感を覚え、慰めと希望を感じさせる人物です。宗教的な天才でも、修業によって自分を律する人でもない、凡人とも見えたペテロが、神様の恵みによって「使徒」とされ、この手紙を書いています。

この手紙は、紀元 62 ~ 64 年頃に書いたと考えられます。この手紙の受取人は、「Pontus、Galatia、Cappadocia、Asia、Bithynia」に散って寄留している、選ばれた人々です。「Pontus、Galatia、Cappadocia、Asia、Bithynia」というのは、ほぼ今日のトルコに相当する部分で、「小アジア地方」とも言われる地域です。

この地域に「散って寄留している選ばれた人々」です。「選ばれた人々」というのは、「キリスト者」のことです。

間違った選民意識

ある人々は「選ばれた人々」というと、そういう人たちが時として示す、鼻持ちならない差別意識を思い出してウンザリするかもしれません。旧約時代のイスラエル人の中にもそのような思いを持つ人々がいたので、神様は、イスラエル人が偉かったから、強かったからえらばれたのではない、と、それをたしなめられた言葉もあります。

「あなたがたの切り出された岩、掘り出されて穴を見よ。」(イザヤ書 51:1)

ペテロはそういう類の選民意識を奨励したのではありません。

ペテロ自身が、イエス様に対して「あなたはいける神の御子キリストです」(マタイ 16:16)と信仰を告白した時に、イエス様は大変の喜びになれましたが、これはペテロ自身の信仰深さとか才能とか努力によるのではなくて、父なる神様のお示しによるのです。だから、自分を誇れるものではありませんよ、という意味のことを告げられました。

だから、ペテロは、自分自身や信者たちの誰かを高ぶらせるために「選ばれた人々」という言葉を言ったのではないのです。逆に、神様の一方的な選びによって救いの祝福に与ったことを感謝し、神をほめたたえさせるためなのです。 1:3。救いは、三位一体の、父・子・聖霊の神のお働き恵みによるのです。

地上にいる間、戦いはある

この人々は小アジア地方に「散って寄留している」人々である、と語られています。これは、その人々の住んでいるところが自分の本籍地であったとしても、究極的な「本籍」が他の所にあることを意味します。パウロが言うように「私たち(キリスト信者)の国籍は天にある」のです(ピリピ 3:21)。天国が本籍ですから、必ず帰れるのです。

しかし、私たちは、神様の御旨が導かれるまでは、この地上にいます。この地上で

は様々な戦いがあります。神様はその戦いの中にあって、私たちを守り、勝利を得させて下さいます。この信仰が与える祝福のすばらしさを体験しつつ、神様の御力によって歩みましょう。その戦いを見て恐れ、しり込みしないように、